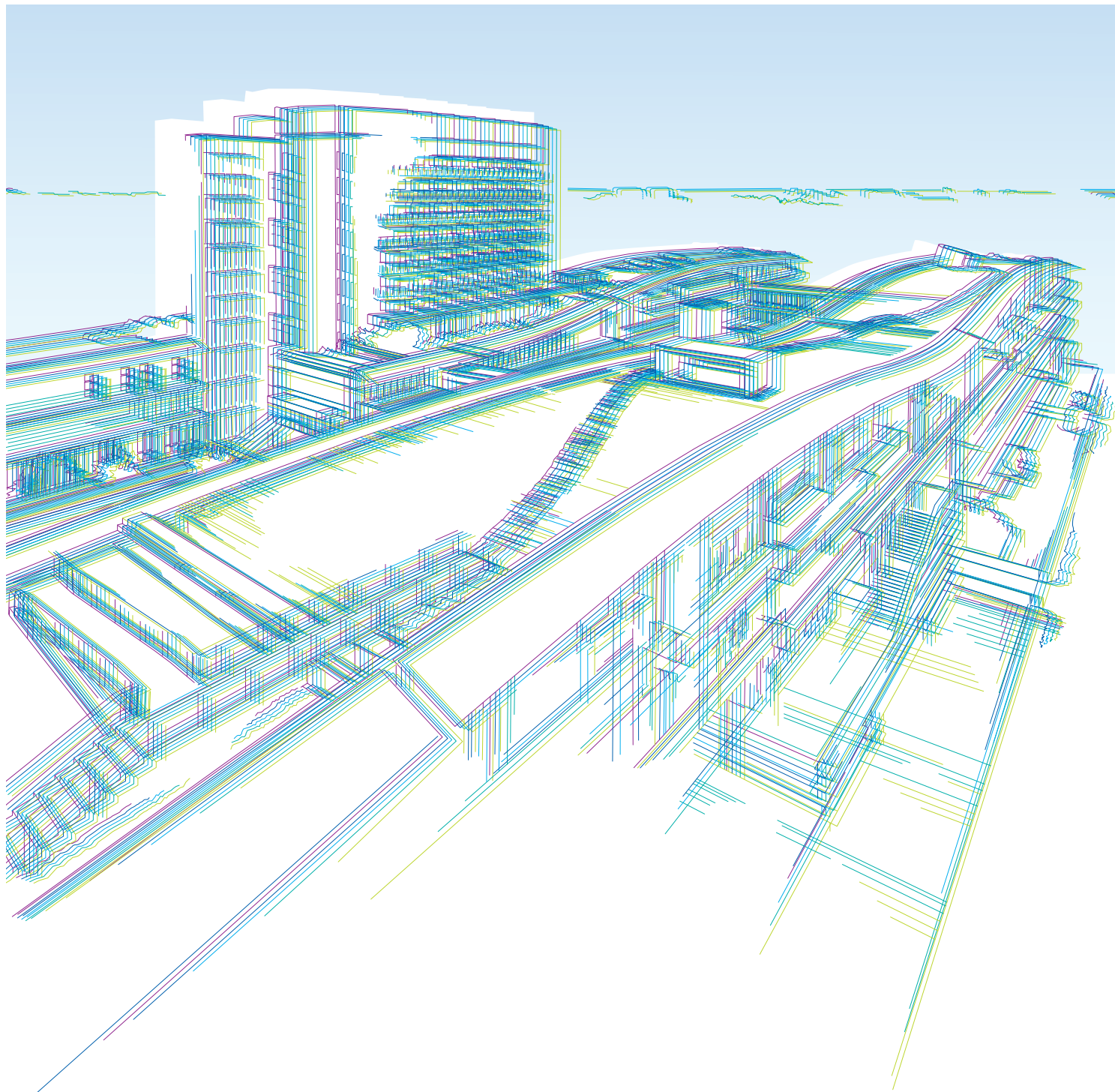




SUAC 2024年度

大学概要

公立 | 静岡文化芸術大学

私たちはこのような大学を目指します

実務型の人材を養成する大学

豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、
国際社会の様々な分野で活躍できる人材を養成していきます。

社会に貢献する大学

地域、国際、世代が教育研究の場で幅広く融合する「開かれた大学」
として地域社会や国際社会の発展に貢献していきます。

静岡文化芸術大学のあゆみ

平成7年(1995)9月	静岡県議会で「新大学整備基本構想」を公表
平成9年(1997)6月	大学名を「静岡文化芸術大学」と決定
平成11年(1999)12月	文部大臣より学校法人設立及び大学設置認可
平成12年(2000)4月	開学 木村尚三郎学長 就任
平成15年(2003)11月	文部科学大臣から大学院設置認可
平成16年(2004)4月	大学院開設
平成18年(2006)4月	デザイン学部技術造形学科をメディア造形学科に名称変更
平成19年(2007)4月	川勝平太学長 就任
平成22年(2010)1月	熊倉功夫学長 就任
平成22年(2010)4月	学校法人から静岡県設立の公立大学法人へ移行 有馬朗人理事長 就任
平成22年(2010)10月	創立10周年記念式典挙行
平成27年(2015)4月	デザイン学部 3学科を「デザイン学科」1学科(5領域)に再編
平成28年(2016)4月	横山俊夫学長 就任
平成30年(2018)4月	フェアトレード大学認定(アジア初)
平成31年(2019)4月	文化政策学部「文明観光学コース」、 デザイン学部「匠領域」を設置(第6領域)
令和元年(2019)5月	CUMULUS(アート・デザイン・メディアに関わる国際大学協会)に加盟
令和2年(2020)7月	創立20周年記念事業開始(新型ウィルス禍により規模縮小)
令和2年(2020)12月	有馬朗人理事長 逝去、横山学長(副理事長)が理事長代行
令和4年(2022)4月	横山俊夫理事長兼学長 就任

文化とデザインの時代を拓く

これからは文化とデザインの時代である、と熱く語られるようになりました。20世紀には、科学や技術が発達し、さまざまな分野で人類は大きな力を手にしました。しかしそれらが全体として調和し、人間社会とその環境を美しく輝かせたでしょうか。

それはむしろこれからです。この課題は、地域でも、地球規模でも、切実です。それらに前向きにとり組む人とは、文化の力、デザインの力を洞察する感性と知性を備え、それらの力で世を明るくする知恵と技能を発揮できる人です。本学は、このような人を育てようと、平成12/2000年に開学しました。

それ以来、遠州ゆかりの世界企業家をはじめ地域の皆様に励まされ、人文学を深め、デザイン感覚をみがきつつ、実践力を身につけて地域と世界に貢献できる人々を鍛えてきました。国内外から優秀な才能が年々本学に集まるのは嬉しいことです。

まさに、多くの創造者を生みだしてきた遠州の風土に囲まれたキャンパスならではの、感謝し、心をひきしめております。



静岡文化芸術大学 理事長・学長

横山 俊夫

YOKOYAMA Toshio

社会に貢献する大学を目指して

学びの特色

｜ 2学部交流

文化とデザインの融合を目指し、それぞれの視点を理解することで新しい価値を生み出していきます。実践演習の他、課外においてもギャラリーや工房などで企画展を実施し、そのスタッフとして両学部の教員や学生が関わり、同じ目的のために共に学ぶ貴重な機会も得られています。

｜ 導入教育

本学では、大学への学びの導入として、「文化芸術体験演習」と「学芸の基礎」を1年次に設置しています。「文化芸術体験演習」では、落語や狂言、写真、茶道の4ジャンルを実際に体験して文化や芸術を学ぶことにより、感性を磨きます。「学芸の基礎」では、読む、書く、調べるを中心に大学で学ぶ上での学習の基礎を習得します。

｜ 少人数教育

語学や情報処理、演習授業など、多くの科目で少人数のクラス編成による教員と学生の対話、コミュニケーションを重視した環境を用意しています。一人ひとりの学生を尊重し、個々の自由な発想を導き出す、きめ細やかな指導を行っています。

｜ 社会から求められる実践的な語学・情報処理

情報化・国際化が進む社会では、語学や情報処理の能力が求められます。英語・中国語を必修外国語とし、フランス語・ポルトガル語など6言語の選択履修が可能。ネイティブスピーカーや専任教員による実践的な語学・情報処理教育を行っています。

学びの環境

モノづくりと多文化が共生するまち「浜松」の精神が息づく新スタイルの大学です。

技術や文化を通し、地域に世界に開かれたまちであるように、本学も「開かれた大学」を目指しています。

JR浜松駅から徒歩15分という都市型キャンパスは、「ユニバーサルデザイン」の理念が取り入れられており、充実した施設・設備が整った緑豊かな環境となっています。静岡県が、県を挙げて取り組んでいる

ユニバーサルデザインの分野では、本学から素晴らしい研究成果も誕生しています。

また、全国的にも外国人在住人口が多い浜松市は多文化共生の先進都市であり、言語、習慣、文化の違いを超えて共生するモデル地区としても注目されています。国内外で活躍中のユニークで著名な教授陣が名を連ねており、実践重視の教育方針で「実務型の人材」を育成します。



学部・学科の構成



実践教育

実社会で役立つ力を涵養するため、本学では実践教育を重視しています。課題を見つけ解決する方法を学ぶ科目や、実社会に出て体験を通して地域課題への理解を深める科目、また自らのテーマを持って主体的に実践・提案する科目を設けています。

柔軟な学習領域の選択

2学部共通の科目が多く設けられていることに加え、他学部・他学科の授業科目でも履修できます。指定の他大学や海外研修先での取得単位も本学での単位として認める単位交換も実施しています。

免許・資格の取得支援

それぞれの学科のカリキュラムにより、教員、学芸員、図書館司書、建築士、日本語教員などの免許・資格取得につながる科目を設定。キャリア支援室主催の公務員試験講座等さまざまな就職支援講座も設けられ、免許・資格の取得を支援し、学生の将来をサポートしています。

地域との連携

地域に根ざした開かれた大学として、施設開放をはじめ、企業や地域社会との交流も積極的に行っています。自治体やNPO、地域企業との連携や産官学共同研究の実施、地域イベント等への参加を通じ、学生たちの広い視野を養っていきます。

日本語教員養成課程

静岡県や浜松市は外国人人口が多く、多文化共生社会の実現に向けた取り組みが盛んです。その実情を知り、地域に根差した日本語教育の在り方について考え、日本語の教え方を実践的に学べる課程を設置しています。「教える」という教授者の視点のみでなく、「共に生き、快適な生活環境について考える」という共生の視点を持って取り組める人材を養成していきます。多文化共生の地域づくり、日本語教育をする力の底上げ、異文化コミュニケーション能力の向上といった「社会ニーズ」、外国人労働者への日本語教育といった「企業ニーズ」、これら2つのニーズに応えた課程です。

国際交流センター

多文化を理解し、積極的に関わることができるグローバルな視野と地域の視点を併せ持った人材育成のための支援を行っています。

■主な事業:留学支援／国際交流／多文化共生への取り組み



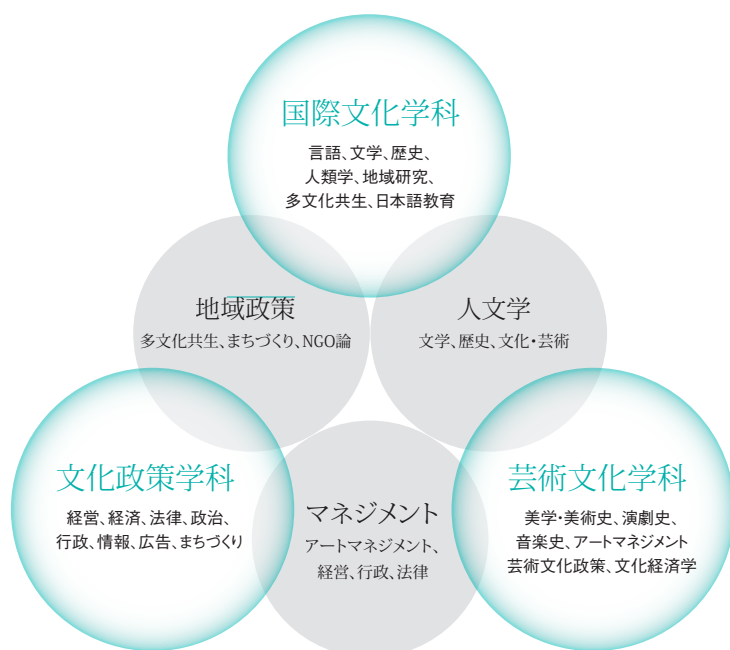
文化政策学部

Faculty of Cultural Policy and Management

学部長：梅田英春

既成の枠を越えて、文化の新たな地平を切り拓く人材を

現在につながる歴史の深みと、世界的な社会の広がりをも踏まえた視点から、多角的に文化および芸術を認識し、豊かな感受性と、文化の創造・発展に必要な知識を身につけ、国際的な視野を持って新たな時代を切り拓く人材を育成しています。文化政策学部は、人々が「豊か」と感じる社会の実現を目指し、いきいきとした社会生活を送るための理念や政策を見つけ出し、いく力を持つ人材を輩出することで、社会に貢献していきます。



文化政策学部の3学科

文化政策学部では、「国際文化学科」、「文化政策学科」、「芸術文化学科」の3つの学科を設け、社会と文化のかかわりを専門的に学びます。

一定の領域を持ちながらも、3つの学科は互いに関係しています。複雑、多様な社会について、専門領域だけでなく周辺領域の知識にも触れながら、広く、深く学んでいきます。

3学科横断型の 文明観光学コース

国際文化学科

Department of Intercultural Studies
入学定員:100名／学科長:永井敦子

異文化を理解し、国際的にコミュニケーションできる
人材を養成します。

国際文化学科では、文学・歴史から政治・経済まで、広範に世界の多様な文化を学びます。異文化を学ぶ上で必要な語学も、8言語の科目が設けられています。世界各地の文化について探究すると同時に、自国の文化について振り返ることは、より深い文化理解を可能とします。あらゆる分野で異文化への理解が要求される現在、本学科では、幅広い文化的教養を身につけ国際的にコミュニケーションできる、知性と感性にあふれた人材を養成します。

取得可能な資格

中学校教諭一種(国語、英語)
高等学校教諭一種(国語、英語)
図書館司書
学校図書館司書教諭
日本語教員養成課程
社会調査士

主な進路

製造業や運輸・通信業の国際部門、商社・卸売業、放送・広告・印刷業、旅行・観光・ホテル業、金融業、流通・小売業、官公庁、教員 など

文化政策学科

Department of Regional Cultural Policy and Management
入学定員:55名／学科長:四方田雅史

政策・経営・情報の視点から、新たな人間と
社会のあり方を探求できる人材を養成します。

文化政策学科では、社会と地域の特性をふまえた上で、人々の生活の質と生きがい向上させるためにはどのような方策が必要かを学びます。そのために、「政策」、「経営」、「情報」の視点から、社会の課題について多角的に考察し、生活、地域、産業のあるべき形を探求します。このようなカリキュラムを通じて、行政やビジネスの現場で役立つ理論と実践的なスキルを身につけ、地域や産業の活性化に貢献できる分析力、思考力、行動力を兼ね備えた人材を養成します。

取得可能な資格

中学校教諭一種(社会)
高等学校教諭一種(公民)
図書館司書
学校図書館司書教諭
日本語教員養成課程
社会調査士

主な進路

地方自治体(公務員)や公益法人、金融業・製造業・流通業・保険業・観光業・広告業・IT企業等の企画・販売・広報・管理部門、教員など

芸術文化学科

Department of Art Management
入学定員:55名／学科長:高島知佐子

芸術とそれを取りまく社会について理解し、芸術の持つ力
を現代社会で活かすことのできる人材を養成します。

芸術文化学科では、「文化と芸術」「政策とマネジメント」というカリキュラムにおける2つの主要な柱があり、芸術文化について人文科学、社会科学の両面から多角的、学際的に学ぶことができるのが特徴です。加えて「芸術運営の実践」では、博物館等での展示や劇場のプロデュース、舞台の運営などの手法を実践的に学びます。理論と実践とのバランスがとれたカリキュラムで多様な分野で芸術が持つ力を社会に活かすことのできる人材を養成します。

取得可能な資格

図書館司書
博物館学芸員
日本語教員養成課程
社会調査士

主な進路

文化会館・ホール(文化財団職員)、博物館・美術館(学芸員)、芸術文化団体、マスコミ・出版業、広告代理店、サービス業、情報産業、地方自治体(公務員)など

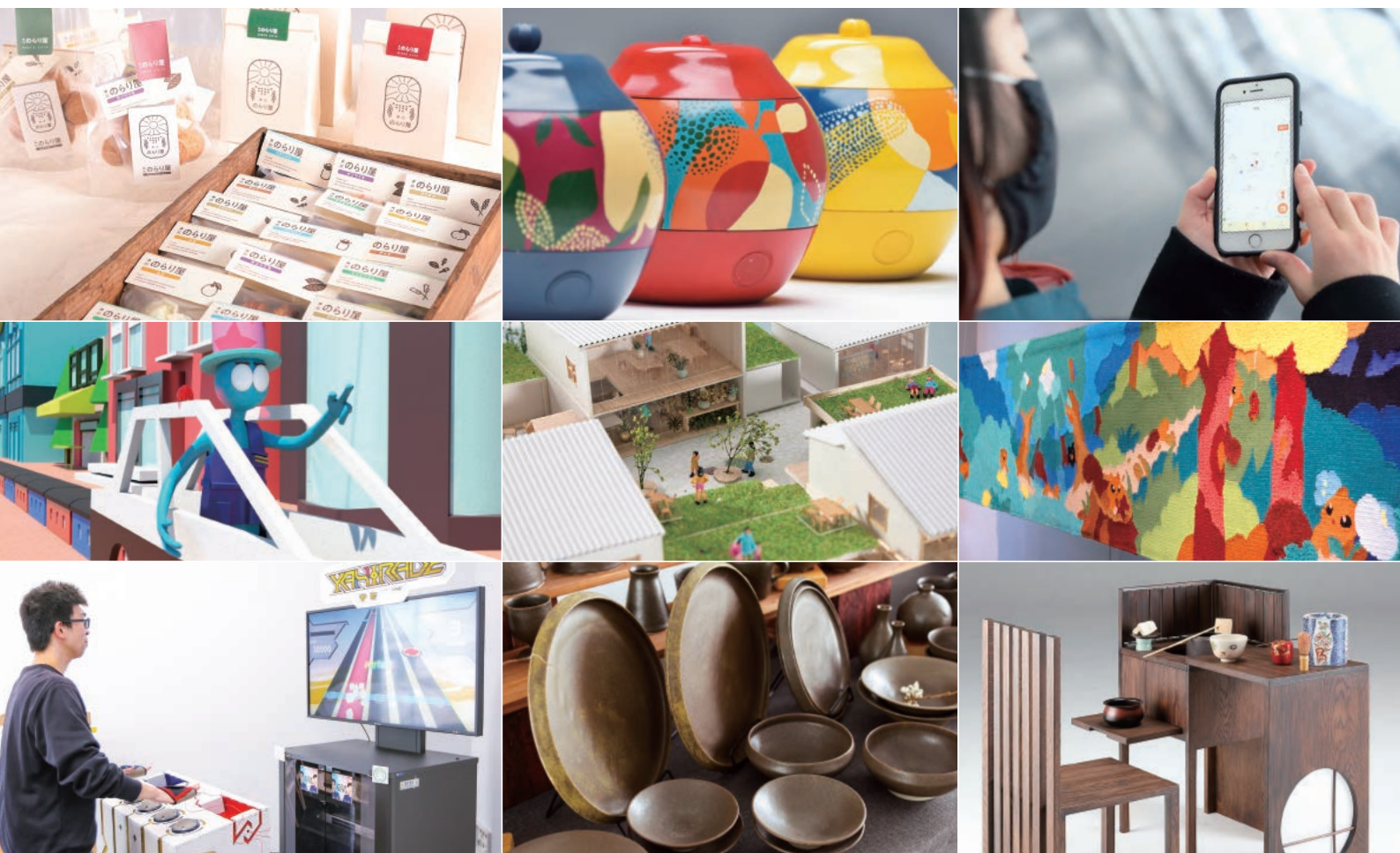
デザイン学部

Faculty of Design

学部長：藤井尚子

ユニバーサルデザインを基本に、使う人の立場に立った提案を

人間を見つめ、文化の多様性を視野に入れながら、ユニバーサルデザインの理念のもと、デザインによって誰もが快適に生活できる環境を提案し、地域の発展と文化の向上に貢献するために、生活文化と技術、環境との調和のとれた関係を、美的感覚を持ってつくりあげていくことのできる人材を育てます。また、人と人、人と技術、人と環境、人と情報とのより良い関係を考え、これからの人間社会に必要な生活文化を創造していく素養を磨いていきます。



進路(例)

｜ プロダクトデザイナー	｜ クラフトデザイナー	｜ インテリアプランナー
｜ Webデザイナー	｜ 商品企画	｜ 一級・二級建築士
｜ エディトリアルデザイナー	｜ デザインディレクター	｜ 商業施設士
｜ グラフィックデザイナー	｜ パッケージデザイナー	｜ 公務員
｜ ゲームデザイナー	｜ CGデザイナー	｜ 大学院進学
｜ インターフェイスデザイナー	｜ 家具デザイナー	

デザイン学科

Department of Design

入学定員:110名／学科長:藤井尚子

基礎的な学び

デザイン基礎

社会が求める統合的かつ多様なデザイン力を涵養するため、幅広いデザイン領域に共通する概念や理論の修得および現代のデザインへ繋がる歴史やデザインをとりまく社会等に関する知識の修得、国際的なデザイン活動を支える基礎力の修得を目指す科目群から学びます。

デザイン技法

豊かな感性と想像力を備えたデザイナーとして社会で活躍するために、考えたアイデアを平面や立体に的確に表現することで、デザイナーに必要なとされる顧客や社会とのコミュニケーションを図る手法を学ぶとともに、新たなアイデアの創造につながるデザインの基礎から応用にわたる造形技法を修得するための科目群から学びます。

ユニバーサルデザイン

本学のデザイン教育・デザイン研究の基調となる、文化・能力・年齢・性別等の違いに関わらず全ての人にやさしいユニバーサルデザイン、あらゆる立場の人を含むインクルーシブデザインの考え方を理解し、社会の中で幅広く実践できる能力を養う科目群から学びます。

学科専門

1年次後期から2年次前期において、複数領域の基礎演習を体験することを通じて専門的な知識や造形技法を修得し、デザインを総合的に捉え、実践できる力を養う科目群から学びます。

希望を提出し、領域を選択

6つの領域で専門性を磨く

01

デザインフィロソフィー領域

歴史・文化・技術等の学術的な知見をもとに、社会の幅広い分野においてデザインの役割を拡張できる人材を養成していきます。

02

プロダクト領域

生活者の視点を軸に、実作的な方法により、心豊かな暮らしに繋がるプロダクトデザインを探索・提案できる人材を養成していきます。

03

ビジュアル・サウンド領域

メディアとしての映像・グラフィック・サウンド等を駆使して、時代に訴える新しい価値を生み出すことができる人材を養成していきます。

04

建築・環境領域

建築を中心に、インテリア・ランドスケープ・都市計画など幅広い分野に通用する設計力を養うことで、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成していきます。

05

インタラクション領域

多様化するデザイン諸分野の知識と技術を融合させることで、人と環境の新たな関係を創り出せる人材を養成していきます。

06

匠領域

伝統的な建築・工芸についての知識と基本技能を修得し、現代社会と呼应しうる新たなデザインを生み出す人材を養成していきます。

大学院

Graduate School

21世紀は「市民」の時代と言われています。それは、これからは「政府」「企業」ではなく「市民」が主体となり、自分たちの望む社会を創造していくことを意味しています。大学院では、市民社会のリーダーに必要な、様々な価値観を尊重しつつとりまとめていく、課題解決の能力を養成します。

文化政策研究科

Graduate School of Cultural Policy and Management

文化政策専攻 修士課程(2年)／定員：10名／研究科長：上山典子

文化の力を形にし、社会に提供できる人材を

人間社会において、文化は人を動かし、束ねる大きなエネルギー源です。また、様々な示唆と知恵を人間に与えてくれる集合体でもあります。こうした文化の力を、人間の未来社会のために形にする営みが「文化政策」とも言えます。私たちは、文化・芸術創造や組織運営のあり方を探求し、「文化政策」をプロジェクトや政策として提案できるプロフェッショナルな人材を育成します。

現場からの学びを重視した実践的なカリキュラム

文化政策研究科では、専門的な文献研究だけでなく、実践の場でのフィールドワークや調査を重視し、文化・芸術のもつ可能性を可視化・具体化できる人材を育成していきます。院生は以下の3つの研究専門領域から1つを選び、領域横断的で学際的な研究を教員の指導のもと展開していきます。



アーツアンドカルチュラル
マネジメント

Arts and Cultural Management

楽団、劇団、美術館などの民間および公立の施設運営、行政の文化政策、文化産業、文化イベントなどのあり方や可能性に関する研究を行う。

地域政策マネジメント

Regional Policy and Management

まちづくりや地域活性化、コミュニティ政策、自治体改革、行政評価など、未来の地域に必要な活動や政策のあり方や可能性に関する研究を行う。

グローカリストディーズ

Glocal Studies

グローバル化の影響で、世界的規範や法、地域社会にどのような変化が生まれているのか、そして未来の持続可能な社会のあり方や可能性に関する研究を行う。

修士論文

演習科目

●演習I ●演習II

基幹専門科目

- アーツアンドカルチュラルマネジメント専門領域の科目
- 地域政策マネジメント専門領域の科目
- グローカリストディーズ専門領域の科目

基礎科目

●文化政策研究の方法 ●アクションリサーチ基礎 ●リサーチワークショップ

デザイン研究科

Graduate School of Design

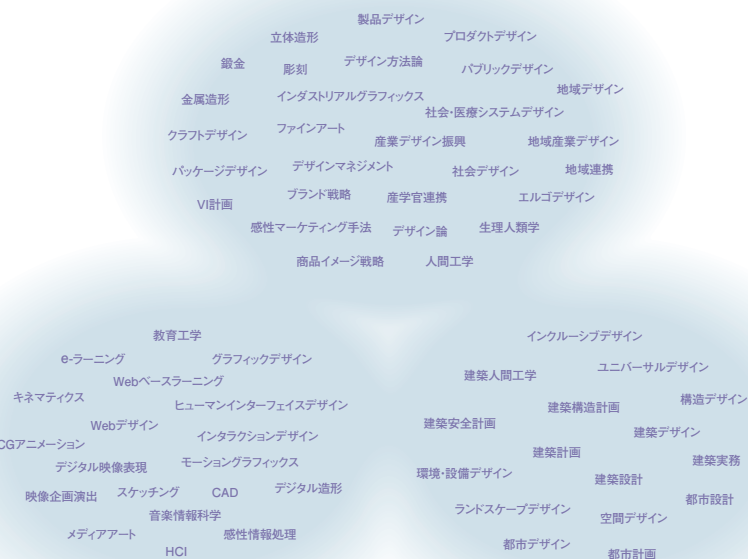
デザイン専攻 修士課程(2年)／定員：10名／研究科長：中野民雄

社会を見据え、新たなデザインを探求する。

いまデザインは、深く社会にかかわり、問題を美しく解決するための方法として大きく期待されています。人間や社会、地球環境に対する深い造詣とモノづくりへの情熱をベースに、企画立案能力から実務的設計能力まで、これからのデザインプロフェッショナルに必要な専門知識と応用能力を高め、社会の要請に応える人材を養成していきます。

研究分野

高度情報化、循環型社会への転換、そして高齢化の進展など、大きく変化する時代環境にあって、デザインに要請される内容は多様化し、デザイナーには専門的な能力が幅広く求められるようになっていきます。デザイン研究科では、そのような社会的要請に応えるために、皆さんがこれまでに身につけたデザインあるいはその他の分野の専門性をベースにして、より高度なデザインの力を磨くための実践的な研究の場を提供します。

修士論文
修了制作

特別研究

特論演習科目

特論演習 インターンシップ等

特論科目

- デザイン史
- ユニバーサルデザイン
- エルゴデザイン
- プロダクトデザイン
- パッケージデザイン
- 基礎造形
- 造形デザイン
- インダストリアルデザイン
- インターフェイスデザイン
- インタラクションデザイン
- メディアデザイン
- 映像デザイン
- Webデザイン
- インテリアデザイン
- ランドスケープデザイン
- 建築デザイン
- 構造デザイン
- 環境設備デザイン

デザイン研究科において、所定の単位を取得すれば、一級建築士免許登録要件の実務経験2年として認められます。

国際交流

国際社会に貢献する開かれた大学を目指して

本学の基本理念である「国際社会に貢献する開かれた大学」の実現に向け、グローバルに活躍できる人材の育成を目指して、海外の大学と交流協定を結び、様々な交流事業を展開しています。

海外協定校 (19校) (2024年3月現在)

フィンドレー大学

【アメリカ合衆国】



1882年に開学し、現在は経営学部、教育学部、医療学部、教養学部、薬学部、理学部の6学部から成る総合大学です。オハイオ州に位置し、学生数約4,000人、地域との結びつきが強く、留学生に対するサポート体制も充実しています。

イズミル経済大学

【トルコ】



2014年より産学共同国際ワークショップで交流を深め、2015年に交流協定を締結しました。イズミル経済大学(2001年創立)は、2大学院、7学部、2専門学校からなる総合大学で、英語で授業、外国籍の教員が多数在籍する国際色豊かな大学です。デザイン学部を有しており、今後もデザインワークショップ開催、留学生受け入れなど交流を行っていきます。

ブルゴーニュ大学

CIEF 【フランス】



ブルゴーニュ大学は、1722年創立、フランスのブルゴーニュ地方に5つのキャンパスを持つ国立総合大学で、学生数30,000人、教員数4,000人を数えます。国際フランス語センターは、ディジョン市のメインキャンパス内にあり、大学の学部に対応する一機関として毎年3,000人以上の留学生を受け入れています。

アイルランガ大学

人文学部 【インドネシア】



1954年にインドネシア第2の都市スラバヤに設立された国立総合大学。人文学部には2006年に日本研究学科が開設され、4学年あわせて200人を超える学生が日本文化を学んでいます。本学からの留学生には人文学部の授業のほかに留学生別科BIPAでの語学科目も単位認定されます。

ボローニャ大学

【イタリア】



1088年の創立で「世界最古の大学」とも言われており、建築学部以外はすべての専門を擁する国立の総合大学です。イタリアのエミリア・ロマーニャ州の州都であるボローニャ市にあり、在籍学生数は10万人を超えています。アートマネジメント研究の分野においては、総合芸術学科(1970年創立)が先進的研究拠点となっています。

国立台湾師範大学

【台湾】



国立台湾師範大学は、1946年に設立された台北市に本拠を置く国立大学で、国際的に語学教育分野での評価が高い大学です。本学は2016年に語学研修生の派遣を行い、同年に交流協定を締結しました。交換留学、語学研修を中心に交流しています。

その他の提携校

ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビッド／イギリス
コートダジュール大学サステイナブルデザインスクール／フランス
国立高等装飾美術学校／フランス

ルール大学ポツダム／ドイツ
ワルシャワ美術アカデミー／ポーランド
サザンクロス大学／オーストラリア
サンパウロ大学／ブラジル

ウダヤナ大学／インドネシア
ダッカ大学／バングラデシュ
湖西大学校／大韓民国
華東師範大学／中華人民共和国

上海工程技術大学／中華人民共和国
浙大城市学院／中華人民共和国

語学研修

実体験を通じて異文化への理解を深めることは、真の国際人としての感性を養う上で、欠くことのできない条件です。本学では世界に通じる人材育成を目指して、世界各国への研修を実施するなど、語学研修の充実に努めています。(毎年プログラム内容を見直しています)

2023年度 語学研修先

ヴィクトリア大学／カナダ：英語

チチェスター・カレッジ／イギリス：英語

サザンクロス大学／オーストラリア：英語

デラ・サル・アラネタ大学付属語学センター／フィリピン：英語

ブルゴーニュ大学CIEF／フランス：フランス語

国立台湾師範大学／台湾：中国語

F+Uアカデミー／ドイツ：イタリア語、ドイツ語

特徴的な教育・研究活動

社会とのかかわりの中で学ぶ

すべての人がそれぞれの違いを認め合い、尊重し合える社会を築くために、研究・教育活動を展開しています。

さまざまな実践的取り組みを通してより深い学びが可能になります。

ユニバーサルデザイン

年齢、性別、身体能力、言語など、人々が持つさまざまな特性や違いを超えて、すべての人が利用しやすいものづくり、まちづくりや社会づくりを行うこと、それがユニバーサルデザインの概念です。本学では、これからの社会に欠くことのできないユニバーサルデザインの基本的な考え方を、文化政策・デザイン両学部で学ぶことができます。大学施設にはユニバーサルデザインが各所に取り入れられており、実際に利用し、体感することも可能です。身体が不自由な方々のための自助具デザインプロジェクトや、ユニバーサルデザイン関連コンペへの参加・受賞など、学生たちの自主的な活動も盛んです。



多文化共生

さまざまな国籍、多様な民族の人々がお互いの文化の違いを認め合い、対等な関係を目指していくことが多文化共生の理念。

教育面では、講義で学ぶだけでなく、実際に外国籍の児童・生徒の学習支援事業など実践的な活動も行い、多文化共生社会の実現を目指しています。また、日本語教員養成課程を設置し、地域や企業の中で異なる文化的背景を持つ人同士が共存する手助けができる人材を育成しています。

地域貢献面では、地域社会と連携し、行政・教育分野の政策立案などを通して、地域に貢献しています。これらの活動では学生がボランティアとして、時には中心的な立場で運営に参加しています。

外国籍の人々が多く暮らす浜松は多文化共生を学ぶ有意義な場なのです。



外国にルーツのあるSUAC生による座談会。
日本人学生や教員らも一緒に様々な意見が交わされました。

アートマネジメント

アートマネジメントというと、音楽会や展覧会等の事業を企画運営することだと捉えている人も多いかもしれません。しかし本来のアートマネジメントは、これらの事業を継続的に実施する組織、すなわち楽団や劇団、ホールや劇場、美術館等の運営のことを指します。しかもそれを営利目的ではなく、公益的な目的のために行う、非営利組織のマネジメントであるというのが特徴です。

本学では開学以来、社会科学系教員と音楽・美術・演劇などの芸術系教員が連携して、アートマネジメント教育を行ってきました。学部・大学院共に、アートマネジメント教育の国際組織である芸術経営教育者協会(AAAE)の正会員として、国際基準に沿ったカリキュラムを提供し、研究機関としてもアートマネジメントの日本における拠点として実績を積み重ねています。

卒業生や大学院修了生は、全国の文化施設等、アートマネジメントの現場で活躍しています。



キャンパスガイド

21世紀の新しい大学像を実現した、
文化・芸術の発信地となる個性的なキャンパス

施設の特徴

ユニバーサルデザインの理念をもとに設計されています。外観デザインには山の尾根や水の流れ、波のうねりを感じさせる緩やかな起伏を取り入れており、市民が利用可能な図書館・情報センター、自由創造工房、緑あふれる中庭「出会いの広場」や屋上「創造の丘」を設けています。

環境対策

建物の屋上を緑化することで、夏季・冬季の空調負荷の軽減に努めています。また、地下ピットに雨水を貯め、雑用水に利用しているほか、太陽光発電を池の循環ポンプの電源などに利用して省エネルギーを図っています。

すべての人にやさしい、アクセシブルな自由空間。



音声でも誘導する案内サイン

案内サインは、大学カラーのブルーを基調に、日本語と英語で表示しています。点字案内板も学内11カ所に設置され、音による誘導も行っています。



段差を解消するスロープ

施設内の段差は、スロープ化することで解消。弾力のある滑りにくい素材を使用し、高さ75cmごとに踊り場を設けるなど、安全性にも配慮しています。



スムーズに通過できる広い出入り口

出入り口には、120cm以上の自動ドアを採用し、大ガラス面には衝突防止シールが貼られています。床には段差がなく、スムーズに出入りできます。

ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、年齢や性別、文化・言語の違い、能力の如何にかかわらず、すべての人が利用できるようにモノや空間をデザインするという考え方です。これまでの多くの道具や建築物は、平均的な人が使いやすいようにデザインされており、そうでない人には利用できなかったり、過度の負担を強いたりしていました。これからの道具や建築物には、あらかじめ多様な人々の利用を想定し、アクセスを可能にしておく配慮が必要とされています。古くから「用と美」という言葉があるように、本学では、機能性と審美性を備えた、さりげなく、美しく、できる限り多くの人のアクセスを可能にするユニバーサルデザインを目指しています。



多機能型トイレとサイン

トイレの種類は、男性、女性、多目的の3種類。各々の違いを識別できるよう、入口には手が届く高さに点字を設置しています。



ゆったりとした廊下や階段

廊下も階段も幅が広く、ゆったりとすれ違えるよう設計されています。廊下は無駄な凹凸がなく、階段は踏み面を広くとり、勾配も緩やかです。



誰もが利用しやすい通路

図書館・情報センターでは、書架のあいだのスペースを広く取り、人のすれ違いや車椅子の方が利用しやすい余裕を持った設計がされています。開放感がある高い天井で、柔らかな照明の明るい館内です。

施設・設備紹介

緑と共生するキャンパスです



出会いの広場



創造の丘



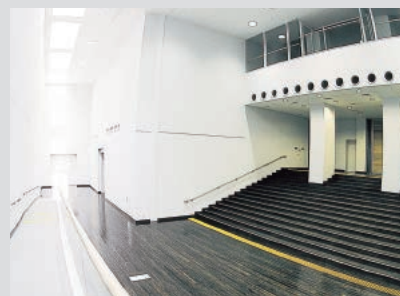
学生ホール前(中庭)



図書館・情報センター



講堂



文化・芸術研究センター



ギャラリー



大講義室



体育館

ART WORK アートワーク

出会いの広場のアートワーク Transparent Doubts

出会いの広場に展示されたアートワーク。ガラスに囲まれた不思議な空間が、創造性をかき立てることから「瞑想ベンチ」の愛称で呼ばれています。artist : Jaume Plensa



創造の丘のアートワーク Furnishing

大きさの異なる7つのベンチは、最大のもので高さ1.8m。日常の見なれた風景の中で意外な発見をすることへのインスピレーションを与えてくれます。artist : Inges Idee



池の中のアートワーク Apollo Plan

アンテナ、スピーカー、メガホンなど、情報交換の手段として使用される機器をモチーフにした作品。人々が交流する開かれたネットワークを象徴しています。artist : 真喜志 奈美

工房紹介

より実践的な教育を実現する工房・各種機器が揃っています



〔造形系〕木材加工室
木工素材でモデルや作品を制作する。



〔造形系〕金属工房
彫金・鍛金・鍍金技法を用いた金属の加工造形をする。



〔造形系〕クレイモデル室
クレイ(粘土)で大型モデルを制作する。



〔造形系〕陶芸工房
陶芸の実習や作品制作を行う。



〔造形系〕テキスタイル工房
染めや織などのテキスタイル作品を制作する。



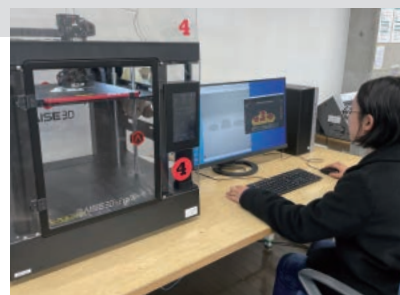
〔造形系〕撮影スタジオ
制作作品や完成モデルを撮影する。



〔情報系〕マルチメディア室
デジタルサウンド編集やゲーム等を制作・編集する。



〔情報系〕グラフィックWS室
CG作品や映像作品を制作・編集する。



〔実験系〕工作室
CADやCGのデータをもとに3Dプリンター等で制作する。

その他の工房

造形系工房

- 金属加工室
- ガラス工房
- 塗装乾燥室
- ドライモデル室
- プラスチック加工室
- 木彫工房
- 立体工房
- 製図室

- 平面工房
- 染色工房
- CAD/CAM室
- 暗室
- デッサン室
- 録音スタジオ
- 総合組立アトリエ

実験系工房

- 構造実験室
- 人体機能実験室
- UDラボ
- 生物機能実験室
- 空間演出実験室

情報系工房

- 電子制御機器製作室
- OA室
- CG工房

開かれた大学

時代の流れをいち早く反映した特色ある科目の設置、学ぶ意欲を持った社会人等の受け入れ、
地域の人々への施設開放、そして、企業や国際社会との交流…。
静岡文化芸術大学は、「地域」「国際」「世代」など、あらゆる対象に向けて「開かれた大学」であり続けます。

地域との交流活動

地域社会へ、大学の教育とノウハウを提供していきます。共同研究や受託研究など産官学の連携を推進します。

生涯学習の場として

静岡文化芸術大学は、勉学の機会を拡げ、地域の皆さんの学習意欲、知的好奇心に応えられる生涯学習の場、「開かれた大学」でありたいと考えています。入学試験に合格し、正規学生として学んでいる社会人学生や、希望科目の単位修得を目指す科目等履修生、授業のみを受講する社会人聴講生など、多くの社会人の方が本学で学んでいます。

科目等履修生制度

科目等履修生とは、本学の授業科目（演習科目等の特定の科目を除く）を学生とともに履修し、試験等による評価を受けることで単位を取得できます。

社会人聴講生制度

授業科目（演習科目等の特定の科目を除く）を正規の学生と一緒に聴講することができます。試験等を受けることはなく、単位の取得はできません。

公開講座

一般市民の方を対象とした講座を開催しています。講座内容は本学の専門分野を活かしたものを設定しています。

各種セミナー・文化事業

本学教員による研究成果の発表会や、地域の文化振興に寄与する文化・芸術関連のセミナーなどを開催しています。

文化・芸術研究センター

学部・研究科の連携による研究活動を推進し、学術・文化芸術に関わる研究成果の情報発信を行っています。

文化・芸術研究センター
URL <https://www.suac.ac.jp/researchcenter/>



地域連携センター

文化やデザインに関する本学の知見を活かした産業振興や地域づくりのため、産学官民の連携を推進しています。

大学施設案内

小・中学校、市民団体等を対象に施設案内を実施しています。校外学習や研修等、目的に応じた内容でご案内いたします。

問合せ／事務局企画室：TEL.053-457-6113

高等学校との連携 (高大連携)

本学教員が高校で講義を行ったり、本学の通常授業を高校生が聴講したりするなど、高校との連携を推進しています。また、高校教員の皆様に、本学への理解をより深め、進路指導の参考にさせていただくため、高校教員を対象としたオープンキャンパスを始め、大学見学や進学相談会を実施しています。

問合せ／事務局入試室：TEL.053-457-6401

地域社会への開放施設

生涯教育の場として、地域社会に大学を開放しています。

図書館・情報センター

約26万冊の図書、約1,700タイトルの新聞・雑誌、約7,600点の視聴覚資料(CDやDVD等)を所蔵しています。利用者カードを作成すれば、所蔵資料(一部を除く)の貸出も可能です。

開館時間

- ・授業期間(月～金)
8:45～20:00
- ・春期・夏期などの休業期間
9:00～17:00
- ・土曜日
10:00～17:00

※開館時間・休館日の詳細は、センターWebサイトをご覧ください。

休館日

- ・日曜日、国民の祝日
(振替休日も含む)
- ・年末年始
- ・その他臨時休館日

問合せ | 図書館・情報センター
TEL. 053-457-6124 FAX. 053-457-6125
URL <https://www.suac.ac.jp/library/>



自由創造工房

自由な制作・創作活動を通して、本学と地域との広範な交流を実現するための多目的工房です。



問合せ | 事務局 地域連携室
TEL. 053-457-6105

学生食堂

北棟3階にある学生食堂は、どなたでも利用できます。日替ランチ、カレー、麺類など多彩なメニューをお楽しみください。

営業時間

平日 11:00～14:00
※大学休業期間などに時間変更や閉店することがあります。



学生データ・学納金

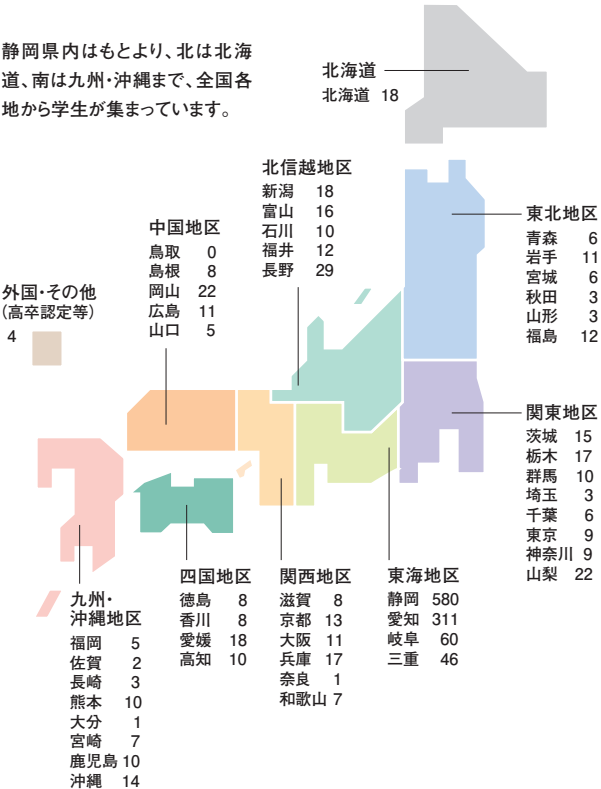
学生データ

全国各地から集まる学生、少人数教育によりきめ細かい指導を実践

本学の学生は全国各地から集まっています。また、海外からの留学生の受け入れにも積極的に取り組んでいます。指導にあたっては少人数制教育を基本に学生へのきめ細かい対応を実現。個々の能力アップに力を注いでいます。

都道府県別出身地（学部生）

（2024年4月1日現在）



在籍者数

（2024年4月1日現在）

学部	学 科	1年生	2年生	3年生	4年生	学科計
文化政策	国際文化	103	114	105	139	461
	文化政策	60	62	61	66	249
	芸術文化	59	56	59	65	239
	学 部 計	222	232	225	270	949
デザイン	デザイン	120	121	118	127	486
	学 部 計	120	121	118	127	486
2学部計		342	353	343	397	1,435

	研 究 科	1年生	2年生	研究科計
大学院	文化政策	5	12	17
	デザイン	11	13	24
	2研究科計	16	25	41

学納金

入学生に適用する学納金

（2024年度）

区 分	県内の入学者	県外の入学者	摘 要
入 学 金	141,000円	366,600円	入 学 時
授 業 料（年 額）	535,800円		

学費の支援体制

授業料の支援

授業料を一括で納入することが困難な場合には、国の修学支援新制度（授業料減免を含む）や本学独自の分割納入制度をご案内しています。

各種奨学金制度

日本学生支援機構、民間団体、自治体の奨学金（貸与・給付）をご案内しているほか、留学希望者には本学独自の支援制度を用意しています。

2024年5月1日現在

※上記企業の他にも、多数の企業・団体等から内定をいただいております。なお、各社の業種別への分類は本学の分類によるものです。

役員・教員等一覧

法人役員等一覧

2024年5月1日現在

理事	理事長 横山 俊夫 静岡文化芸術大学学長	理事(常勤) 松下 育蔵 元静岡県公営企業管理者・企業局長	理事(非常勤) 石田 亨 京都大学名誉教授	理事(非常勤) 渡邊 裕司 国立大学法人浜松医科大学 理事兼副学長
監事	松田 隆広 弁護士 あおば法律事務所	藤田 将司 公認会計士・税理士 藤田将司公認会計士税理士事務所		
経営審議会委員	横山 俊夫 公立大学法人静岡文化芸術大学 理事長・学長	松下 育蔵 公立大学法人静岡文化芸術大学 理事(常勤)	石田 亨 公立大学法人静岡文化芸術大学 理事(非常勤)	渡邊 裕司 公立大学法人静岡文化芸術大学 理事(非常勤)
	上野 稔勝 公立大学法人静岡文化芸術大学 事務局長	加藤 祐輔 スズキ(株) 人事総務担当部長	斉藤 薫 浜松商工会議所会頭 遠州鉄道(株)代表取締役会長	中野 祐介 浜松市長
	高畑 啓子 (株)あぶち代表取締役	深井 晃子 (公財)京都服飾文化研究財団 名誉キュレーター、理事	山崎 貴裕 (有)春華堂代表取締役社長	
教育研究 審議会委員	横山 俊夫 静岡文化芸術大学 学長	松下 育蔵 公立大学法人静岡文化芸術大学 理事(常勤)	寒竹 伸一 静岡文化芸術大学 副学長	森 俊太 静岡文化芸術大学 副学長 国際交流センター長
	梅田 英春 静岡文化芸術大学 文化政策学部長	藤井 尚子 静岡文化芸術大学 デザイン学部長	上山 典子 静岡文化芸術大学大学院 文化政策研究科長	中野 民雄 静岡文化芸術大学大学院 デザイン研究科長
	小杉 大輔 静岡文化芸術大学 教務部長	谷川 真美 静岡文化芸術大学 学生部長	服部 守悦 静岡文化芸術大学 キャリアセンター長	磯村 克郎 静岡文化芸術大学 文化・芸術研究センター長 地域連携センター長
	かわ こうせい 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター長	二本松 康宏 静岡文化芸術大学 入学試験・高校大学連携センター長	上野 稔勝 静岡文化芸術大学 事務局長	
	織田 敦 静岡県高等学校長協会 会長	鍋倉 伸子 (一社)大学女性協会静岡支部 役員		
参 与	堀川 晋 静岡文化芸術大学後援会会長	海野 俊也 (株)静岡新聞社 執行役員東部総局長	遠藤 芳伸 元鈴与(株) 相談役	大場 司 (株)中日新聞社取締役 東海本社代表
	鬼頭 宏 静岡県立大学特別顧問	仲田 晃弘 (公社)静岡県私学協会理事長	長谷川 正榮 元浜北市長	

専任教員一覧

※ 大学院兼任 2024年度在籍教員

学 長
横山 俊夫

副学長
寒竹 伸一 (デザイン研究科特任教授)

副学長
森 俊太 (文化政策学科特任教授)

文化政策学部

学部長 梅田 英春

国際文化学科	教授/学科長 永井 敦子	教授 青木 健	教授 林 在圭	教授 Edward Pearse SARICH	教授 岡田 建志
	教授 倉本 哲男	教授 佐野 由紀子	教授 Jack RYAN	教授 高木 邦子	教授 武田 好※
	教授 西田 かほる※	教授 二本松 康宏	教授 水谷 悟	教授 美濃部 京子	教授 兪 嶸
	教授 横田 秀樹※	准教授 石坂 貴美※	准教授 内尾 太一※	准教授 崔 学松	准教授 佐伯 康考
	准教授 武田 淳※	准教授 徳増 克己	准教授 中田 健太郎	准教授 西脇 靖洋	准教授 福永 達士
	准教授 宮崎 千穂※				
文化政策学科	教授/学科長 四方田 雅史※	教授 加藤 裕治※	教授 小杉 大輔	教授 鈴木 浩孝※	教授 曾根 秀一※
	教授 田中 啓※	教授 野村 卓志	教授 林 左和子	教授 藤井 康幸※	教授 船戸 修一
	教授 森山 一郎※	准教授 小林 淑恵	准教授 塩見 佳也※	准教授 野島 那津子※	
芸術文化学科	教授/学科長 高島 知佐子※	教授 梅田 英春※	教授 奥中 康人※	教授 片桐 弥生	教授/大学院文化政策研究科長 上山 典子※
	教授 谷川 真美※	教授 永井 聡子※	准教授 佐藤 良子※	准教授 田中 裕二	講師 稲山 玲
	講師 田ノ口 誠悟※	講師 南田 明美	講師 藪田 淳子		

デザイン学部

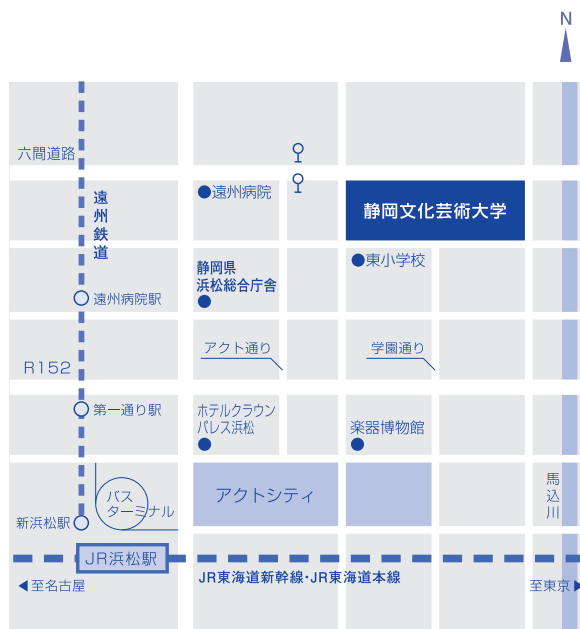
学部長 藤井 尚子

デザイン学科	教授/学科長 藤井 尚子※	教授 礪村 克郎※	教授 岩崎 敏之※	教授 植田 道則※	教授 小浜 朋子※
	教授 亀井 暁子※	教授 かわ こうせい※	特任教授 佐井 国夫※	教授 迫 秀樹※	教授 佐藤 聖徳※
	教授 Jérôme BOULBÈS	教授 高山 靖子※	教授/大学院デザイン研究科長 中野 民雄※	教授 羽田 隆志※	教授 服部 守悦※
	教授 花澤 信太郎※	教授 日比谷 憲彦※	教授 的場 ひろし※	教授 和田 和美※	准教授 荒川 朋子
	准教授 小川 直茂※	准教授 中川 晃	准教授 新妻 淳子	准教授 丹羽 哲矢※	准教授 百束 朋浩※
	准教授 松江 幸子※	准教授 松田 達	准教授 宮地 良治※	講師 小田 伊織	講師 古賀 真弥
	特任助手 王 雪陽	特任助手 西山 雄大	特任助手 丹羽 あや	特任助手 根木 隆之	特任助手 羽島 昂平
	特任助手 藤石 清香	特任助手 山口 貴一	特任助手 横地 敬		

文化・芸術研究センター
地域連携センター
センター長/デザイン学部教授 礪村 克郎

図書館・情報センター
センター長/デザイン学部教授 かわ こうせい
キャリアセンター
センター長/デザイン学部教授 服部 守悦

国際交流センター
センター長/副学長 森 俊太
入学試験・高校大学連携センター長
センター長/文化政策学部教授 二本松 康宏



公立大学法人 静岡文化芸術大学

<https://www.suac.ac.jp/>

〒430-8533 静岡県浜松市中央区中央 2-1-1

TEL 053-457-6111 FAX 053-457-6123

- JR浜松駅より徒歩15分
- 遠州鉄道／「遠州病院駅」下車、徒歩8分
- 遠鉄バス／浜松駅北口バスターミナル10番のりば
→バス停「文化芸術大学」下車